

## 令和2年度 第2回鳥取県がん診療連携協議会 議事要旨

**日時** 令和2年3月16日(火) 15:00~17:00  
**場所** 会議室3・4 (第二中央診療棟2階)  
**出席者** 原田 省 (鳥取大学医学部附属病院長)  
武中 篤 (鳥取大学医学部附属病院がんセンター長)  
廣岡 保明 (鳥取県立中央病院 院長)  
吹野 俊介 (鳥取県立厚生病院 副院長)  
松岡 正尚 (米子医療センター 杉谷篤副院長 代理)  
小寺 正人 (鳥取市立病院 診療局長・がん相談支援センター長)  
西土井 英昭 (鳥取赤十字病院 病院長)  
皆木 真一 (鳥取生協病院 院長)  
林 英一 (野島病院 乳腺・内分泌外科部長)  
坪倉 知子 (山陰労災病院 野坂仁愛副院長 代理)  
五郎丸 修 (博愛病院 副院長 代理)  
谷 俊輔 (鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課長)  
萬井 実 (鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課長)

**欠席者** 杉谷 篤 (米子医療センター 副院長)  
野坂 仁愛 (山陰労災病院 副院長)  
角 賢一 (博愛病院 副院長)  
渡辺 憲 (鳥取県医師会 会長)  
岡田 克夫 (鳥取県医師会 常任理事)  
植木 芳美 (鳥取県福祉保健部理事監兼健康医療局長)

### 陪席者 【鳥取県】

小林 一義 (鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課がん・生活習慣病対策室長)  
岡垣 亜矢子 (鳥取県中部総合事務所福祉保健局健康政策課 課長補佐)

### 【鳥取大学医学部附属病院】

大山 賢治 (鳥取大学医学部附属病院 緩和ケア科 科長)  
矢内 正晶 (鳥取大学医学部附属病院化学療法センター 医師)  
上田 恵己 (鳥取大学医学部附属病院外来化学療法室 看護師長)  
舩越 美華 (鳥取大学医学部附属病院医事課事務職員)  
中村 真由美 (鳥取大学医学部附属病院看護部長)

宮田 幸宏 (鳥取大学医学部附属病院事務部長)  
浦田 明宏 (鳥取大学医学部附属病院総務課長)  
井中 康夫 (鳥取大学医学部附属病院医事課長)  
大島 佐千子 (鳥取大学医学部附属病院医事課副課長)  
角田 ひろみ (鳥取大学医学部附属病院総務課法規・評価係長)  
長尾 健一 (鳥取大学医学部附属病院総務課法規・評価係 主任)  
秦野 秀雄 (鳥取大学医学部附属病院医療福祉支援センター)

#### 部会員 【鳥取県立中央病院】

浦川 賢 (緩和ケア部会)

#### 【米子医療センター】

原田 賢一 (相談支援部会)

松波 馨士 (緩和ケア部会)

#### 【鳥取大学医学部附属病院】

岡本 幹三 (がん登録部会)

吉岡 奏 (相談支援部会)

大石 徹郎 (手術療法部会)

福田 哲也 (化学療法部会)

澄川 崇 (化学療法部会)

吉田 賢史 (放射線治療部会)

議事に先立ち原田協議会長からの開催挨拶に続き、武中センター長が司会進行をつとめる旨説明があった。

## ◆協議事項

### 1. 協議会規則の変更について

県健康政策課萬井氏から資料 1 に基づき、米子医療センターが一部指定要件を満たしていなかったため、「がん診療連携拠点病院」から「拠点病院に準じる病院」へ指定変更された旨説明があり、協議の結果、これを承認した。(令和 3 年 3 月 16 日より施行)

### 2. 協議会委員及び、作業部会員の解嘱・委嘱について

武中委員から資料 2-1、2 に基づき、協議会委員及び、作業部会員の委嘱・解嘱について説明があり、協議の結果、これを承認した。

### 3. 今年度の協議会活動報告及び来年度の計画について

武中委員から、資料3に基づき、COVID-19の影響下、予定が中止となるなど活動が困難になっている状況、また協議会活動予定について説明があった。

「がん診療研修会」は実務の先生方が多数参加されるため、前年度評価、及び1年の計画を一部グループワークで行い、今まで通り年1回5月に開催。「がん診療連携協議会」については、年2回を1回へ変更し、11月開催を提案された。COVID-19影響下、回数を減らし内容を充実させて開催するほうが良いとの判断であり、協議の結果、承認された。

緩和ケア研修・市民公開講座・がんフォーラム等例年通り計画されているが、補助金などの兼ね合い、また集合研修を行ってよいかという点で、毎月開催されていた医療センターでのがん研修は未定である。今後、出来る範囲での開催検討を依頼された。

### 4. 患者体験調査の対象拡大について

県立中央病院廣岡委員から、資料4に基づき、患者体験調査について説明があった。

本県は県立中央病院、厚生病院、鳥大病院の3施設が選ばれたが、概ね全国平均並みの満足度であった。より細かく充実した実情を把握するため、次回は医療センターなど他6施設も対象としてはどうかと提案があり、協力依頼された。

県健康政策課小林氏から、3施設の調査結果については、国がんHPより県全体及び自院データのみ閲覧可能であること、また予算割当は3施設のみでの為、対象を拡げるためにも県での予算要請に働きかける旨説明があった。

鳥取赤十字病院西土井委員より、調査対象者を各施設任意抽出という点で、正確な情報を取得できるのかと質問あり。県健康政策課小林氏より、調査内容も多岐にわたり対象者も公平に抽出されているという認識だと回答があった。

### 5. 鳥取県における地域がん・生殖医療ネットワークの構築について

大石部会長より資料5に基づき、地域がん・生殖ネットワーク構築における分科会の要綱について説明があった。令和3年度より要件を満たすことで、高額な自費診療による若年者の経済的負担軽減のため、助成金を受けることができる。要件の連携ネットワーク体制構築という点から分科会設置となった。要綱案については法規評価係が確認し、手続き上問題ないということであった。第4条の構成員についても説明があった。

また、県健康政策課小林氏より少子化対策の一つとして、県でも予算を組んで体制を整えていきたいと報告があった。

大石部会長より具体的計画として、生殖医療の核となる医療機関への紹介のため、がん治療医と治療を受ける方への啓発、紹介しやすいルート作りを目標とする報告があった。保管費用については国県と折半のうえ、上限内で助成されるが、長期的でない旨説明があった。また、保管施設など具体的なフローチャートを分科会で作成し、医療従事者へ案内することとなった。

## 6. 鳥取県における地域がん・生殖医療ネットワークの構築に伴う部会設置要綱の変更について

武中委員より資料 6 に基づき、各部会の中に、必要に応じて分科会を置くことができるという文言追加の説明があり、承認された。

## 7. 鳥取県からの連絡事項等

県健康政策課小林氏より資料 7 に基づき、がん症例対象研究実施の報告があった。

県内がん罹患率・死亡率の高さから、地域特有の要因について、県健康対策協議会事業として鳥大病院尾崎教授へ調査委託し、がん患者と健常者の生活習慣を比較分析するため、アンケート実施予定である。4 月以降に各病院へ協力依頼の予定である旨説明があった。

武中委員より、正確なデータ収集のためにも解析項目の見直しが必要ではないかと意見あり。他、部位や進行具合など内容について、各部位 100 例ではデータとして不足ではないか、個人情報取扱いについてなど多数意見があった。

県健康政策課小林氏より、ご指摘の点を踏まえて尾崎教授と相談のうえ、5 月の研修会で説明できるよう協議したいと回答があった。また、令和 3 年度予算について、医療費等支援事業での新制度導入・がん症例対象研究での新予算枠確保の報告があった。

## ◆報告事項

### 1. 今年度の作業部会活動報告

資料 8 に基づき、各部会から説明があった。

#### 【がん登録部会】

岡本部長から、今後の課題として、研修会・ホームページの見直し、わかりやすい表現・結果での QI 研究活用、未実施施設での院内がん登録委員会開催、院内がん登録データ活用方法について、がん登録に何を求めるか認知度などアンケート調査実施について報告があった。

また、日本がん登録協議会学術集会での施設紹介・研究発表、オンライン研修会でのがん登録作業実務、集計解析・活用・発表方法の情報交換・共有を目指す旨報告があった。

#### 【相談支援部会】

吉岡部長から、県内がん相談の情報発信及び相談の質の担保について報告があった。

COVID-19 影響下、公開講座開催などは困難なため、情報発信としては新聞紙上セミナー・関係機関へのリーフレット配付などで PR を行った。がんサポートに関する情報についてはとりがんネットを利用し、月一回の情報更新を実施。また、患者会については年度末にかけてオンラインでの交流会を再開し、今後は施設間相互で参加可能となるよう企画準備を進めていく旨説明があった。

がん相談スキルアップについては 8 月に「がんゲノム医療におけるがん相談」を開催、また認定がん専門相談員の新規取得者 1 名、更新者 3 名と目標達成の報告があった。

武中委員から、とりがんネットに各施設のリンクを貼り、アクセスしやすい環境づくりの提案があり、吉岡部長より、各施設に協力依頼し、取り組む旨回答があった。

## 【緩和ケア部会】

県立中央病院浦川委員から、国がんによる「患者体験調査」について報告があった。今後の課題として、治療を受ける方が相談しやすい環境をつくるため、緩和ケアのスキルアップ、非緩和ケアスタッフの関心・理解度の獲得、がん相談の充実、近接性の確保、コミュニケーション能力向上、意思決定支援強化などの取り組みが報告された。圏域の勉強会・研修会については例年に比べると少ないが、院内での実施においては可能な範囲で行われた。その他、COVID-19 影響下での面会に関する問題については、皆が苦勞した部分であったと報告があった。

武中委員よりターミナルの家族面談の状況について質問があり、緩和ケア科大山科長より PCR 検査実施など極力面会できるよう取り組んでいるため、面会できないケースは少ないと回答があった。また、鳥取赤十字病院より、COVID-19 蔓延時には面会できないケースもあり、遺族の満足度としては低下している。感染の疑いでお亡くなりになった方の対応について大変神経を遣うとの報告があった。問題は多々あるが、都度対応しながら今後も遺族の方に寄り添った対応をしていくことに至った。

## 【地域連携部会】

緩和ケア科大山科長から、患者用パス運用、課題について報告があった。

鳥大病院においては、医療福祉支援センターの働きかけにより、令和2年度運用件数115件と格段に増えたが、施設間や地区により運用のばらつきがある。西部医師会にはがんパスに係る委員会があるが、現時点で東中部にはない。東部においては話し合いが出来る環境を整えつつある。また、西部では令和3年2月26日に地域連携パス推進委員会を開催。3月18日には西部医師会主催で東中部医師会と連携し、講演会でのパスの取組みに関する発表、及びパネルディスカッションを予定している旨報告があった。

武中委員から、パスの件数を増やすことが目的ではなく、起点として成果へ繋げることが重要である。そのあたりを討議したいと考えている旨説明があった。

## 【手術療法部会】

大石部会長から、手術件数調査については COVID-19 の顕著な影響はみられず、むしろ増加している疾患もみられた。そのうち胃がんは減少傾向にみえるが、非浸潤がんは調査対象外で内視鏡治療の進歩が要因と思われると報告があった。

武中委員から、検診受診率について質問があり、健対協データでは、年度当初 COVID-19 対策としてだした検診を控える通知の影響もあり減少したが、その後検診の必要性について PR し、後半増えてきた。全体としては、若干減少したというところである。令和3年度さらに検診受診を PR していく方針であると回答があった。

## 【化学療法部】

福田部会長から、がん化学療法の安全性向上の取組みについて、レジメンチェック・免疫チェックポイント阻害薬の免疫関連有害事象への対策強化の報告があった。鳥大病院 irAE 対策チームによる発症時の対応をフローチャートにし、他院に参考にしていただけるようにした。また、COVID-19 影響下、対面でのミーティングが困難であったが、今後は対話形式で各施設の取組みについて、意見交換していきたいと報告された。

## 【放射線治療部】

吉田部会長から、がん治療成績向上に放射線治療で貢献することを目指し、放射線治療の必要性・重要性をアピールすることでの症例数増加促進、IMRT・SRS/SRTなどの高精度放射線治療の推進について説明があった。また、各施設における人材不足の問題について報告があり、放射線治療医の確保については、教育に重点を置き、内部からの人材確保を目指す旨説明があった。臨床的な取り組みとしては、治療新患枠を10枠から18枠へ拡大し受入れ体制を整備、婦人科治療に対するMRIガイド下でのIGBT、肺癌治療に対するSBRTを開始した。問題点としては、2月以降の新患減少である。受入枠拡大で前倒しされたためなのか、COVID-19影響下、検診受診者減少のためか、今後の動きをみていくこととなった。

## 2. 令和2年度都道府県がん診療連携拠点病院PDCAサイクルフォーラム報告

緩和ケア科大山科長から、資料9に基づき、PDCAサイクル活動について報告があった。研修会などの都道府県の活動については、当面の間オンラインでの実施が求められている。また、今後も今回得た経験をもとにオンライン活用していくことが期待されている。支援に向けた情報提供としては、「オンラインによるピアレビュー開催ハンドブック」が作成されている。運営事務局の体制については、「医療の質向上のための協議会」の中にQIに関する部会が組み込まれ、データ収集の参加施設・件数も増えてきている。地域がん診療連携拠点病院は全施設に拡大していく方向で、治療を受ける方の声に耳を傾ける体制の確立を目指していく方針である。また詳しい内容については、国がんWebサイトにて閲覧可能である旨報告があった。

## 3. 本院がんセンターの組織改編について

武中委員から、資料に基づき、令和3年度からの組織改編について、治療を受ける方へのワンストップサービスの提供を目指す旨説明があった。リンパ浮腫外来については、保険適応となるよう体制変更し、薬物専門医養成プログラムを小谷医師に任命、診療連携部門における施設間カンファレンスとして、県庁と鳥大病院間のカルテベースのカンファレンスシステムを構築した旨報告があった。

また、副センター長に任命された小谷医師の紹介があり、がん治療専門医を育成すべく教育部門に注力し、任務遂行に努めると挨拶があった。